きらり 輝く 元気和歌山市

資料8

和歌山市の取組
ふるさとで学び働けるまち

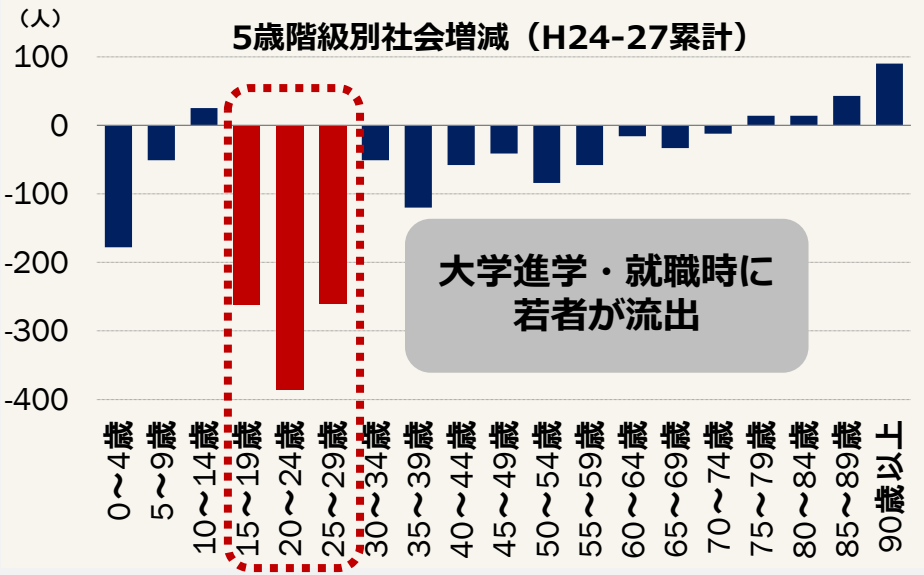
令和７年３月１０日

和歌山市長
尾花 正啓

誘致前の課題

課題① 若年層の県外流出

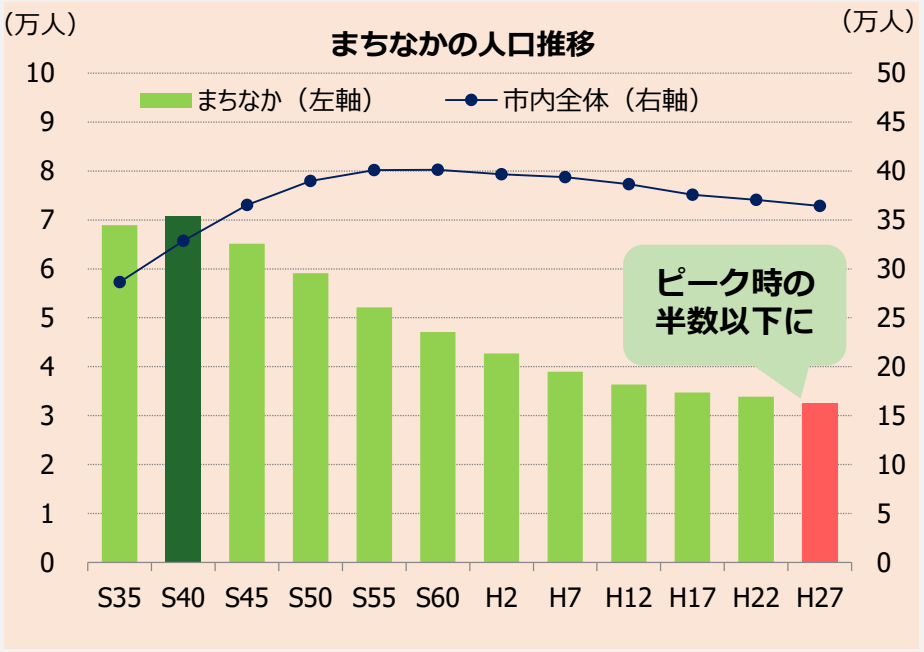
誘致前、市内大学は**３校のみ**（和大、県立医大、信愛短大）



平成27年度の県外進学は全国ワースト1位　出典：学校基本調査

順位	都道府県	県外大学進学率（%）
	全国	56.4
1	**和歌山**	**89.6**
2	佐賀	86.2
3	島根	85.6
45	東京	34.6
46	北海道	31.7
47	愛知	28.0

課題② まちなかの人口減少



まちなかの人口は、S40の約7万人超から、H27ではその半数以下となる約3万人超まで減少
➡少子高齢化による人口の自然減のみならず、**他県に比し大学等の立地数が少なく、県外進学率が４０年以上ワースト１**となるなど、学びの場が少ないことも一因となっていた

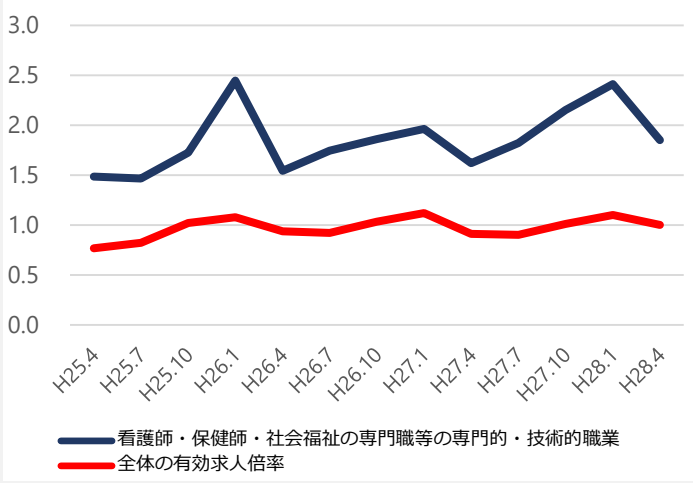
若年層の市外への流出が人口減少の課題に拍車をかけていた

誘致前の課題

課題③ 専門人材の不足

看護師

有効求人倍率（看護師等）



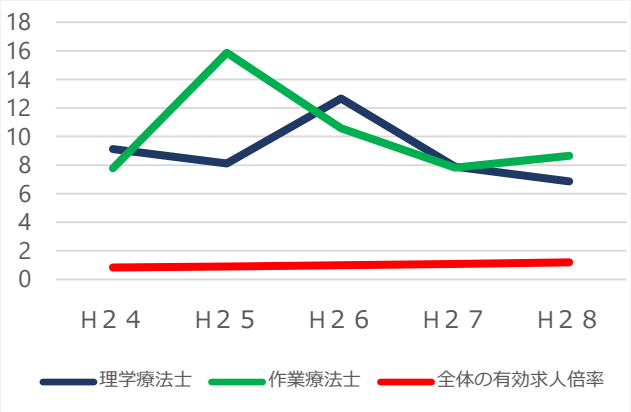
看護師を目指す学生の市外流出

年度	市外の学校に進学する高校生		
	大学	専門学校等	計
H25	58	33	**91**
H26	41	57	**98**
H27	53	43	**96**

・平成27年度の平均の有効求人倍率は2.08倍
・有効求人数は常に300人を超過し、平均の不足数は178人
・新規についても有効求人倍率は2.75倍となっており、毎月76人程度の不足が生じている

理学・作業療法士

有効求人倍率（理学・作業）



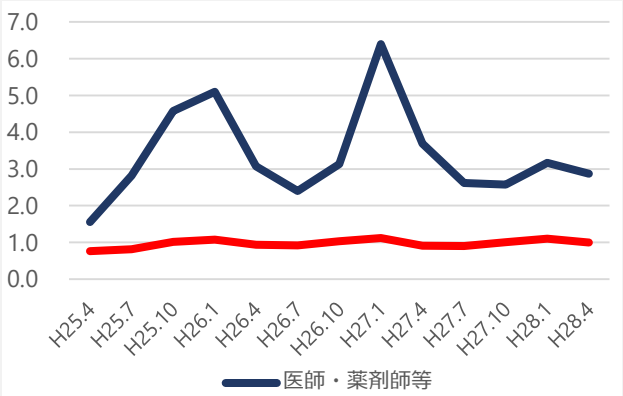
リハビリ系を目指す学生の県外流出

理学	県外に進学する高校生		
	大学	専門学校等	計
H26	70	30	**100**
H27	76	25	**101**
H28	56	29	**85**

作業	県外に進学する高校生		
	大学	専門学校等	計
H26	35	14	**49**
H27	24	18	**42**
H28	27	26	**53**

薬剤師

有効求人倍率（医師・薬剤師）



・平成27年度の平均の有効求人倍率は3.80倍
・**県内に薬学系大学が無い**ために、
毎年県内から**100名**近い生徒が県外に流出
毎年市内から **60名**近い生徒が県外に流出
・和歌山県の薬剤師の年齢別構成は、 34歳以下で17.8%に対し、55歳以上で40.2%と**高齢化**が進んでいた

医療分野以外にも、**保育士・幼稚園教諭**などの教育分野において、保育士・幼稚園教諭の求人倍率がH27で 2.90倍、H28で2.20倍となっており、**エッセンシャルワーカーが不足**していた

専門人材の確保の必要性

誘致前の課題 / まちなかへの大学誘致

課題④ 小中学校の閉校、小中一貫校開校に伴う学校跡地の有効活用

雄湊小学校（平成29年3月閉校）

東京医療保健大学 **平成30年4月開学**

和歌山看護学部看護学科

収容定員数360人

看護師

総事業費 約6.3億円
※市支援 約4億円（うち国補助金の活用 約1.7億円）
工期 約９か月（H29.7-H30.3）

本町小学校（平成29年3月閉校）

和歌山信愛大学 **平成31年4月開学**

教育学部子ども教育学科

収容定員数320人

保育士等

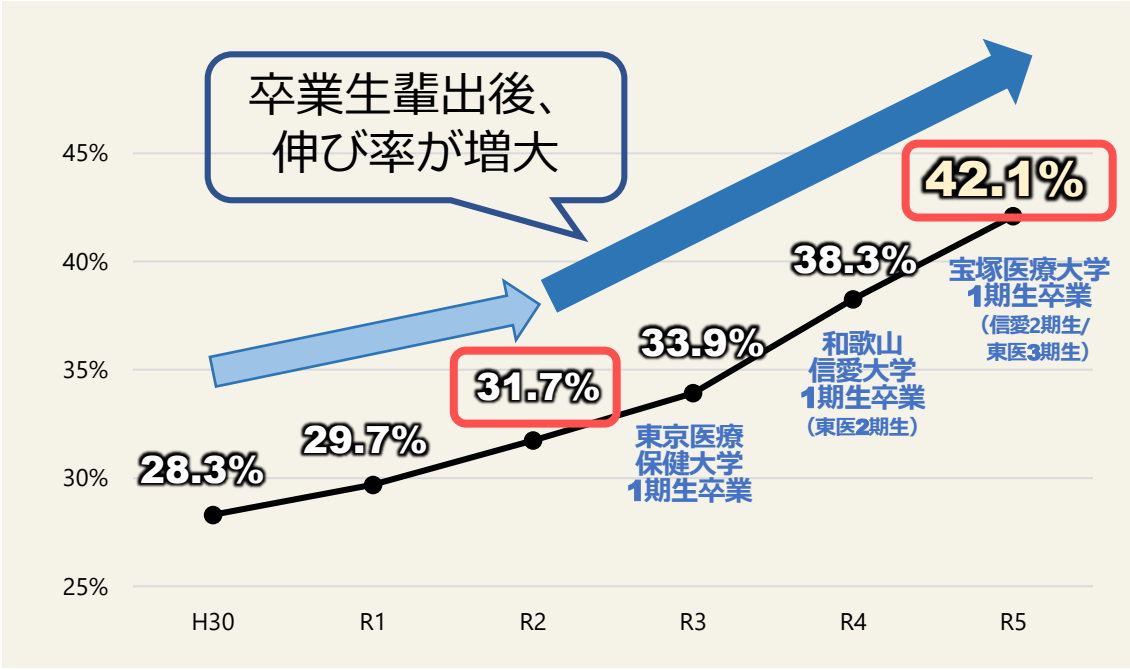
総事業費 約7.4億円
※市支援 約4.9億円（うち国補助金の活用 約2.4億円）
工期 約８か月（H30.1-H30.8）

耐震化済み廃校舎等の活用により、
大学側の初期投資と整備にかかる工期を大幅に軽減（縮減）

大学誘致の成果

誘致大学卒業生の県内就職率(R5) 84.1%

市内大学卒業生の県内就職率 約10%増加



まちなかへの大学誘致の成果

広がる地域とのつながり

大学主催イベントや市民向け公開講座の実施による
地域住民とのつながり創出

子育てイベント

市民公開講座

大学生による社会貢献活動

大学生がイベントやボランティア活動に参加すること
による社会貢献や賑わい創出

ボランティア活動

地域の祭りへ参加

世代を超えた若者のつながり

大学生が市内中学生・高校生向け体験授業を行うなど世代を超えて交流

今後も、地域に根差した高等教育機関となるよう、連携してまいります

ご清聴ありがとうございました